

第 5 次 地 域 管 理 經 営 計 画 書  
第 5 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

(始良森林計画区)

計画期間

自 平成 2 8 年 4 月 1 日

至 平成 3 3 年 3 月 3 1 日

九 州 森 林 管 理 局



# 第5次地域管理経営計画書

(始良森林計画区)

計画期間

自 平成28年4月 1日

至 平成33年3月31日

九州森林管理局



はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、併せて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況もみられる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

従って、国有林野事業は、冒頭の目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して森林・林業再生へ貢献するための取組を進めていくこととする。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律(昭和26年法律第246号)第6条第1項の規定に基づいて、九州森林管理局長が、国有林野の管理経営に関する基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和させ、あらかじめ国民の意見を聴いた上で、今後5年間の始良森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めたものである。

今後、始良森林計画区における国有林野の管理経営は、関係住民の理解と協力を得ながら、さらに、関係行政機関と連携を図りつつ、この計画に基づいて適切に行うこととする。



# 始良森林計画区 機能類型別位置図



伊佐市

えびの市

湧水町

霧島市

島市

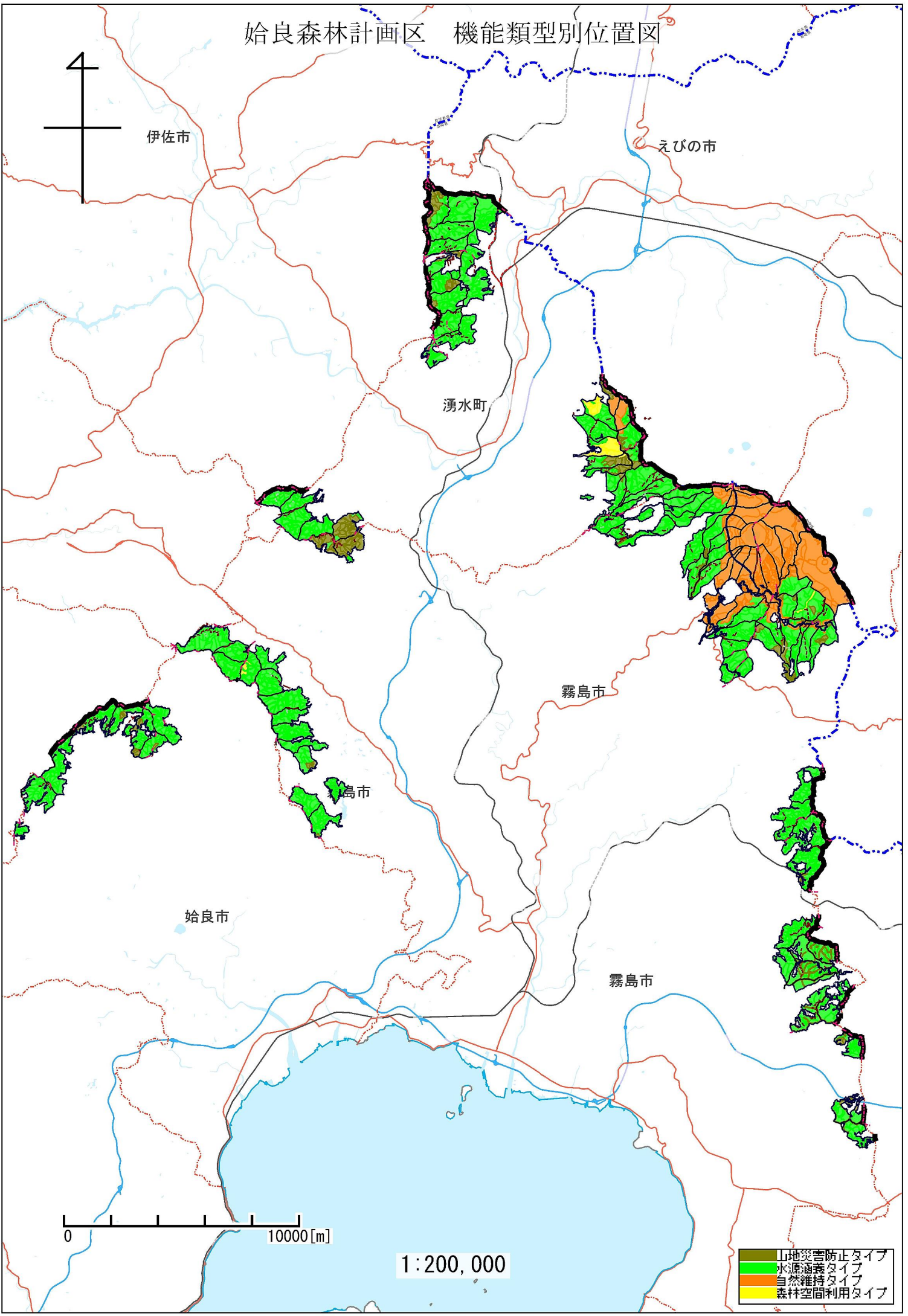
始良市

霧島市

0 10000 [m]

1 : 200,000

- 山地災害防止タイプ
- 水源涵養タイプ
- 自然維持タイプ
- 森林空間利用タイプ







## 目 次

1	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
(1)	国有林野の管理経営の基本方針	1
①	森林計画区の概況	1
②	国有林野の管理経営の現状及び評価	2
③	持続可能な森林経営の実施方向	3
④	政策課題への対応	5
(2)	機能類型に応じた管理経営に関する事項	5
①	山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他 山地災害防止タイプに関する事項	5
②	自然維持タイプにおける管理経営の指針その他 自然維持タイプに関する事項	6
③	森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他 森林空間利用タイプに関する事項	6
④	快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他 快適環境形成タイプに関する事項	7
⑤	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプにおける管理経営の指針その他 水源涵養 <sup>かん</sup> タイプに関する事項	7
(3)	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた 貢献に必要な事項	8
①	低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及	8
②	林業事業体の育成	8
③	民有林と連携した施業の推進	8
④	森林・林業技術者等の育成	8
⑤	林業の低コスト化等に向けた技術開発	8
⑥	その他	8
(4)	主要事業の実施に関する事項	9
①	伐採総量	9
②	更新総量	9
③	保育総量	10
④	林道の開設及び改良の総量	10
(5)	その他必要な事項	10
2	国有林野の維持及び保存に関する事項	10
(1)	巡視に関する事項	10
(2)	森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	11
(3)	特に保護を図るべき森林に関する事項	11
(4)	その他必要な事項	11

3	林産物の供給に関する事項	1 2
	(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	1 2
	(2) その他必要な事項	1 2
4	国有林野の活用に関する事項	1 2
	(1) 国有林野の活用の推進方針	1 2
	(2) 国有林野の活用の具体的手法	1 3
	(3) その他必要な事項	1 3
5	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	1 3
	(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項	1 3
	(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	1 3
6	国民の参加による森林の整備に関する事項	1 3
	(1) 国民参加の森林に関する事項	1 3
	(2) 分収林に関する事項	1 3
	(3) その他必要な事項	1 3
7	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	1 4
	(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	1 4
	(2) 地域の振興に関する事項	1 4
	(3) その他必要な事項	1 4

## 1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

### (1) 国有林野の管理経営の基本方針

国有林野の管理経営は、国有林野の管理経営に関する基本計画に即するとともに、国有林の地域別の森林計画と調和して、機能類型区分等による公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術・資源を活用して森林・林業再生へ貢献することを基本方針とする。

なお、当該森林計画区における概要等は以下のとおり。

#### ① 森林計画区の概況

本計画の対象は、始良森林計画区を管轄区域とする国有林野10,981ha（不要存置林野29haを含む。）であり、鹿児島県の北東部に位置し、北部から南東部にかけては宮崎県と境をなす韓国岳（1,700m）を主峰とする霧島連山の一部の区域である。西部は、国見岳、烏帽子岳等の山系の区域で標高700m程度である。北部に川内川が流れ、始良北部地区及び霧島地区の一部がその集水域に含まれる。また、別府川、網掛川、天降川等が鹿児島湾へ注ぎ、始良西部地区、始良南東部地区、霧島地区の一部がこれらの河川の集水区域である。

森林の現況は、人工林を主体とした育成林が7,091ha（育成単層林6,917ha、育成複層林174ha）、天然生林が3,407haとなっており、主な樹種として針葉樹では、スギ、ヒノキ、マツ、広葉樹ではシイ類、タブノキなどとなっている。また、林相別に見ると針葉樹林6,915ha、針広混交林1,358ha、広葉樹林2,225haとなっている。

本計画区は、水源かん養保安林が全体の89%に達し、霧島市、始良市及び湧水町住民の重要な水がめの役割を担っている。また、豊富な人工林資源を背景に、民有林・国有林一体となった林業地帯が形成されており、国産材の供給基地として木材加工業が発達している。

また、霧島地区は、シイ類、タブノキ、カシ類等の暖温帯性の広葉樹とモミ、ツガ、キリシマアカマツ等の針葉樹が混生した天然林が分布している。なお、霧島地区は、霧島錦江湾国立公園に指定されており、火山、火山湖、滝等森林景観の豊かな観光資源に恵まれていることから、保養、自然探勝、登山など森林レクリエーション、保健休養の場として多くの人に利用されている。

このため、本計画では、林産物の供給や地域振興への寄与にも配慮しつつ、国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進に重点を置くこととする。また、地球温暖化の防止、生物多様性の保全等にも対応した管理経営を行うこととする。

各地区ごとに重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。

#### ア 始良西部地区（1003～1031林班）

別府川、網掛川及び天降川支流の水源域に点在する地区で、スギ、ヒノキ人工林が80%以上を占める。網掛川支流の宇曾木川流域においては、中流域に竹山ダムがあり、霧島市溝辺町と始良市加治木町の上水道等の水源地として重要となっており、水源涵養機能の発揮が期待されることから、大部分の区域を「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

イ 始良北部地区（1113～1116、3086～3088、3092、3094～3096、3099林班）

本計画区の最北端に位置し、川内川に平行して帯状に位置し、傾斜は比較的急峻でスギ、ヒノキの人工林が大部分を占め、広葉樹も多く点在し、下流の集落等の水源林として、水源涵養機能の発揮が期待されることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

ウ 霧島地区（1032～1085、3055、3070～3073林班）

本計画区の北東部に位置し、大部分が天降川の支流及び霧島川の上流に、一部が川内川の支流に位置し、全体的に上流部に天然林、下流部に人工林が分布している。

中でも暖帯性から温帯性樹種までの原生的な垂直植生分布が見られ自然状態が良く保存されている地域は、その多様性に富んだ森林生態系に係る豊富な生物遺伝資源を広範に保存するため、霧島山森林生物遺伝資源保存林を設定している。また、丸尾風致探勝林や栗野岳風景林などを中心に国民の保健休養の場として活用されている。さらに、霧島錦江湾国立公園の特別保護地区及び特別地域や史跡名勝天然記念物にも指定されている。このように、自然環境の保全に係る機能及び保健文化機能の発揮が期待されることから「自然維持タイプ」と「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

地形が急峻で土砂流出防備保安林及び土砂崩壊防備保安林が点在している地区は、山地災害防止機能の発揮が期待されることから「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

エ 始良南東部地区（126～131、136～138、1086～1091林班）

天降川と検校川の上流域に位置する地区は、大半がスギ、ヒノキの人工林であり、地形は比較的急峻で、多数の支流域に分かれ、灌漑用水等の水源林として、また、大淀川の支流に位置する地区は、水源林として、それぞれ水源涵養機能の発揮を期待されることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

② 国有林野の管理経営の現状及び評価

本計画区の国有林は、鹿児島森林管理署で管理経営しており、本計画の対象とする国有林野面積は10,952haで九州森林管理局管内国有林総面積の2%を占めている。

蓄積は2,911千m<sup>3</sup>で九州森林管理局総蓄積の2%を占めている。また、人工林面積は7,078haで人工林率は67%となっている。

森林の種類は、普通林が447haで4%を占めており、制限林が10,505haで96%となっている。なお、制限林の99%が保安林であり、その内水源かん養保安林が93%を占めている。

始良森林計画区内の森林資源状況

(単位：ha、m<sup>3</sup>)

区 分	人工林	天然林	その他	合計
面 積	7,078	3,420	453	10,952
蓄 積	2,115,529	795,713	0	2,911,242

注 合計と内訳が一致しないのは四捨五入によるものである。

主要施策に係る前計画における計画量と実行量について下表に示す。

伐採立木材積に関して、地域における木材の安定供給を図るため、育成単層林の皆伐を主に計画し、ほぼ計画どおりの結果となった。

林道等の開設又は拡張に関して、林道の開設については優先度を考慮し、より優先度の高いものから実行した。林道の改良については、台風や集中豪雨等による被災箇所のうち緊急性の高い箇所を実行した。

主要施策に係る計画量と実行量

項 目	計 画	実 行
伐採立木材積	265,000m <sup>3</sup>	204,166m <sup>3</sup>
主伐	54,000m <sup>3</sup>	64,915m <sup>3</sup>
間伐	211,000m <sup>3</sup>	139,251m <sup>3</sup>
造林面積	184ha	79ha
人工造林	184ha	79ha
天然更新	- ha	- ha
林道等の開設又は拡張	開設：43.8km    拡張：17箇所	開設：23.9km    拡張：7箇所

③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代とともに将来世代へ森林からの恵沢を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいくこととする。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオール・プロセスに参加しており、この中で森林経営の持続可能性を客観的に把握し評価するための7基準（54指標）が示されている。本計画区の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱方針を整理すると次のとおりとなる。

<p>I 生物多 様性の保全</p>	<p>地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等からなる多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護・保全するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。関連する主な施策として、厳格な保全・管理を行う保護林のモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理等を推進するとともに、原生的な天然林や里山林、溪畔林、保護樹帯等を各々の林相に応じた適切な整備・保全を行い、森林生態系のネットワークの構築を図る。</p>
<p>II 森林生態系の生産力の維持</p>	<p>森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。関連する主な施策として、計画、設計、施工の各段階において森林生態系との調和を図りつつ、林道、作業道等の適切な組合せによる路網の計画的な整備を推進する。</p>
<p>III 森林生態系の健全性と活力の維持</p>	<p>外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。関連する主な施策として、松くい虫の被害のまん延防止のため、薬剤による防除、伐倒駆除等に取り組むとともに、シカによる森林被害の状況を踏まえ、被害防除対策を実施する。</p>
<p>IV 土壌及び水資源の保全と維持</p>	<p>降雨に伴う浸食等から森林を守るとともに、森林が育む水源の涵養のため、山地災害により被害を受けた森林の整備、復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。関連する主な施策として、安全・安心に暮らせる環境づくりを目指して、民有林と国有林が連携した効果的な治山対策に取り組む。</p>
<p>V 地球の炭素循環への森林の寄与の維持</p>	<p>地球温暖化防止に貢献するため、吸収源となる森林を確保するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と二酸化炭素の貯蔵庫として機能を維持するため木材利用を推進する。関連する主な施策として、除間伐を主体に森林整備を推進するとともに、治山事業における間伐材等の利用促進や間伐材を使用した紙製品の普及に取り組む。</p>
<p>VI 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進</p>	<p>国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供等や森林施業に関する技術開発等に取り組む。関連する主な施策として、「レクリエーションの森」のPRや施設整備等に努めるなど、「国民の森林」として充実を図るとともに、学校のカリキュラムへの森林環境教育の導入、「遊々の森」の設定の推進、教職員を対象とした森林教室の実施等、学校との連携の強化に取り組む。</p>
<p>VII 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組</p>	<p>I～VIで記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。関連する主な施策として、国有林モニターを活用し、国有林野事業等に対する意見、要望等を聴取するとともに、国有林野事業の運営等について国民の理解の促進を図る。</p>

④ 政策課題への対応

本計画区の国有林では、国土保全や水源涵養等の公益的機能の維持増進、森林・林業再生に向けた取組、森林環境教育や森林とのふれあい、国民参加の森林づくりの推進、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの政策課題に対応している。

とりわけ、森林・林業の再生に向けた取組としては、林業事業者等への計画的な事業の発注による安定的・計画的な木材の供給、森林総合監理士等の活用による民有林行政支援、民有林・国有林一体となった森林共同施業団地の設定等に取り組んでいるところである。

(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行うため、

- ・ 山地災害防止タイプ（土砂流出・崩壊防備エリア、気象害防備エリア）
- ・ 自然維持タイプ
- ・ 森林空間利用タイプ
- ・ 快適環境形成タイプ
- ・ 水源涵養タイプ

の機能類型区分を行い、各機能の発揮を目的とした管理経営を行う。

なお、地域別の森林計画における公益的機能別施業森林との関係は下表のとおり。

○ 機能類型と公益的機能別施業森林の関係

機能類型		公益的機能別施業森林			
		水源涵養機能維持増進森林	山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林	快適環境形成機能維持増進森林	保健機能維持増進森林
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	○	○		
	気象害防備エリア	○	○	○	
快適環境形成タイプ		○		○	
水源涵養タイプ		○			
自然維持タイプ		○	○		○
森林空間利用タイプ		○	○		○

また、機能類型区分に応じた管理経営にあたっては「管理経営の指針」（別冊）によるほか、次の点に留意して、個々の林分の地況、林況等の立地条件に応じて適切に行うこととする。なお、各機能の発揮を図るために導入する林相の維持・改良等に必要な施業により生じる木材については、有効利用を図る。また、齢級構成の平準化・バイオマス利用等の地域ニーズに応じた主伐を計画的に行うことにより木材の供給を図る。

① 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他災害に強い国土基盤の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的関係、地質や地形等の地況、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行うこととする。

ア 土砂流出・崩壊防備エリア

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深くかつ広く発達し、常に落葉層を保持し、適度の陽光が入ることによって下層植生の発達が良好な森林であって、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林を整備の目標とする。

イ 気象害防備エリア

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸被害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標とする。

山地災害防止タイプの面積

(単位：ha)

区 分	山地災害防止タイプ		
		うち、土砂流出・崩壊防備エリア	うち、気象害防備エリア
面 積	740	740	-

② 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプは、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全等に配慮した管理経営を行うこととする。

自然維持タイプの面積

(単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	
		うち、保護林
面 積	2,026	1,984

③ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプは、スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の活動の場及び優れた景観の提供に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの保健・文化的利用の形態に応じた管理経営を行うこととする。



森林空間利用タイプの面積

(単位：ha)

区 分	森林空間利用タイプ	うち、レクリエーションの森
面 積	179	99

④ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項

快適環境形成タイプは、騒音の低減や大気の浄化、木陰の提供等による気象緩和等人間の居住環境を良好な状態に保全する機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの機能に応じた管理経営を行うこととする。

快適環境形成タイプの面積

(単位：ha)

区 分	快適環境形成タイプ
面 積	-

⑤ 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養<sup>かん</sup>タイプに関する事項

水源涵養<sup>かん</sup>タイプは、国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、渇水緩和や水質保全等の水源涵養<sup>かん</sup>機能を高めるため、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系や下層植生の発達が良好で諸被害に強い森林の整備を目標として管理経営を行うこととする。なお、これら条件の維持できる範囲で森林資源の有効利用に配慮するものとする。

水源涵養<sup>かん</sup>タイプの面積

(単位：ha)

区 分	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプ
面 積	8,007

(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者と連携して推進する森林の流域管理システムの下、森林の有する多面的機能の持続的発揮を基本としつつ、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、始良・伊佐地域森林・林業活性化協議会等の場を通じ、県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織・技術力・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組むこととする。

また、このことを通じて、地域経済の発展や山村地域の振興に寄与するよう努めるものとする。

① 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

林業事業体等と連携し、低コスト化で効率的な施業を展開するとともに、これに関する研修会の開催等を通じ、民有林に対する低コストで効率的な施業の普及に努める。

② 林業事業体の育成

民有林行政と連携しつつ、林業事業体への計画的な事業の発注、安定的・計画的な木材の供給及び林業事業体の育成に努める。

さらに、流域で生産された木材の利用促進、システム販売の推進及び木質バイオマス資源の活用に向けた木材需給情報の交換に努める。

③ 民有林と連携した施業の推進

森林共同施業団地の設定により、民有林・国有林一体となった効率的な路網の整備、計画的な間伐の実施等に努める。

森林共同施業団地の概況

箇所数	面積 (ha)	
	国有林	民有林
1	2,094	3,247

④ 森林・林業技術者等の育成

事業の発注や研修フィールドの提供等を通じて、民有林の人材育成支援に努める。

⑤ 林業の低コスト化等に向けた技術開発

産学官連携の下、林業の低コスト化に向けた技術開発の推進に努める。

⑥ その他

国民の森林としての管理経営を推進する観点から、小中学生を対象とした森林環境教育の推進、生物多様性の保全に係る取組の推進（関係機関と連携した野生鳥獣被害対策の実施等）、安全・安心の取組に係る情報提供等に努める。

(4) 主要事業の実施に関する事項

本計画及び前計画期間における伐採、更新、保育及び林道の事業総量は以下のとおりである。

事業の実施に当たっては、効果的かつ効率的な実施に努め、国土の保全、自然環境の保全、生物多様性の保全等に十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、主伐とその後の再生林にも取り組み、混交林化、複層林化、長伐期化や里山の整備等、地域の現況を踏まえ、資源の循環利用を行いながら多様で健全な森林の整備・保全を推進することとする。更新・保育については、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林・育林作業の低コスト化に取り組むこととする。林道等の路網については、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう施業方法に応じて計画的に整備することとする。

また、労働災害がなく、健康で明るく働けるように労働安全衛生の確保に努めるとともに、計画的な事業の発注等により林業事業体の育成・整備を図ることとする。

① 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	主 伐	間 伐	計
本 計 画	150,000	180,000 (1,612)	330,000
前 計 画	54,000	211,000 (2,368)	265,000

注：( ) は、間伐面積である。

② 更新総量

(単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
本 計 画	303	-	303
前 計 画	184	-	184

③ 保育総量

(単位：ha)

区 分	下 刈	つる切	除 伐	枝 打	ぼう芽整理
本 計 画	942	150	81	-	-
前 計 画	305	24	75	-	1

④ 林道の開設及び改良の総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量(m)	箇所数	延長量(m)
数 量	6	9,400	25	19,700

(5) その他必要な事項

特になし。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

本計画区の霧島地区においては、レクリエーションを目的とした入林者が多く、特に、春期の乾燥シーズンや夏期のキャンプシーズンには山火事発生危険が増大する。また、霧島山系の貴重な高山植物盗採や、ゴミの不法投棄も後を絶たない。

このため、地元市町村、住民等で組織されている霧島連山自然保護協議会や霧島山系を管轄する森林管理署、警察署、市町村等で組織された霧島連山高山植物等盗採防止対策連絡協議会と連携を密にして、山火事防止や森林保護の宣伝、普及活動、取り締まりを行うとともに、森林巡視を強化し山火事等の未然防止に万全を期することとする。

また、廃棄物の不法投棄については、地元市町村等関係機関、森林保全巡視員、ボランティア団体等との連携の強化を図り防止に努めることとする。

② 境界の保全管理

境界標の巡検及び境界巡視を確実にを行い、境界の保全管理に努めることとする。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

近年、松くい虫による森林被害は減少傾向にあるものの、依然として発生は続いている。特に霧島の貴重な森林資源であるキリシマアカマツの枯損は重大な問題であり、今後とも「国有林松くい虫被害対策実施計画」に基づき必要に応じて伐倒駆除等を実施することとする。

(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

貴重な自然環境を有する天然林等が多数存在しており、これらの森林については、生物多様性の保全を図る上で重要であり、保護林として設定し適切に保護・保全を図っていくとともに、巡視活動やモニタリング調査を通じた適切な保全・管理を推進することとする。

① 保護林

種 類	箇所数	面積(ha)
林木遺伝資源保存林	1	79
森林生物遺伝資源保存林	1	1,905
総 数	2	1,984

② 緑の回廊

名 称	延長(km)	面積(ha)
該当なし		

(4) その他必要な事項

本計画区の国有林野の大半が水源涵養保安林に指定されているなど、水源涵養<sup>かん</sup>の上で重要な森林が多く存在することから、保安林等の適切な管理に努めることとする。

また、自然災害等により劣化した森林の再生・復元に努めるとともに、ニホンジカなどの野生鳥獣との共存に向けた森林の整備や被害対策、ボランティア団体等と協働・連携し、荒廃した植生の回復措置を行うなど、森林生態系の保全等のための取組について、環境行政との綿密な連携を確保しつつ推進することとする。

溪畔周辺については、野生生物の生息・生育場所や移動経路の提供、種子などの供給源等として、生物多様性の保全上重要な役割を担っているため、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性を確保することにより、よりきめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めることとする。

### 3 林産物の供給に関する事項

#### (1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

国有林材については、地域における木材の安定供給体制の整備等が図られるよう、木材価格、需給動向を踏まえ計画的な供給に努めることとする。

さらに、民有林材・国有林材が一体となった簡素で合理的な流通体制の確立を目指し、国産材の需要・販路の拡大に努めることとする。

#### (2) その他必要な事項

林産物の供給に当たっては、効果的かつ効率的な取組を推進することとし、間伐材の利用促進に当たっては、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムの定着を図りつつ、素材販売により実施するとともに、これまで利用が低位であった木質バイオマス資源として利用可能な低質材等の安定供給にも努めることとする。

また、木造の庁舎等の整備、森林土木工事等の公共工事において間伐材等を積極的に利用する等の木材の利用促進の取組を推進することとする。

### 4 国有林野の活用に関する事項

#### (1) 国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用にあたっては、地域の社会的・経済的状況、住民の意向等を考慮し、また、地域における産業の振興、住民の福祉の向上等に資するよう、国有林野の管理経営との調整を図りつつ、積極的に推進することとする。

本計画区の霧島地区は、鹿児島市等の都市部から比較的近く、温泉、渓谷等の豊富な観光資源に恵まれていることから、ハイキング、登山など森林を活用したレクリエーション・保健休養の場として多くの人に利用されている。

また、国有林内の豊富な温泉資源は、多数の温泉郷として、地元住民や観光者に利用されている。今後もこのような地理的条件を生かした地域づくりを進めていく必要があり、地域の振興に資するための国有林の活用には、自然環境の保護や自然景観の維持に配慮しつつ、積極的に対応していくこととする。

さらに、本計画区域は始良流域の水源地帯に当たり、水源かん養保安林が全体の89%に達し、下流域の水がめとして重要な役割を果たしていることから、都市住民の参加による水源林の造成を推進することとする。

#### レクリエーションの森

種 類	箇所数	面 積(ha)
風 致 探 勝 林	1	62.13
風 景 林	1	98.52
総 数	2	160.65

(2) 国有林野の活用の具体的手法

国有林野の活用に当たり、道路等の公用・公共用地等については貸付又は売払い等によることとする。また、水源林造成等については、分収林制度を積極的に活用することとする。

(3) その他必要な事項

国有林野の活用に当たっては、水源の涵養<sup>かん</sup>、自然環境の保全等の森林の持つ公益的機能との調和を図るとともに、土地利用に関する計画等との必要な調整を行った上で、積極的に推進することとする。

5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項

国有林に隣接・介入する民有林の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林における土砂の流出等の発生が国有林の発揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、国有林の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した施業等を民有林と一体的に行い、民有林の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、公益的機能維持増進協定制度の活用を努めることとする。

(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、民有林の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進めることとする。

6 国民の参加による森林の整備に関する事項

(1) 国民参加の森林<sup>もり</sup>に関する事項

ボランティア団体等との協定に基づく「ふれあいの森」等により、国民の自主的な参加による森林整備活動等を推進することとする。

(2) 分収林に関する事項

森林に対する国民の要請が多様化する中で、社会貢献活動として森林づくり<sup>もり</sup>に自ら参加・協力したいという企業等の要請に応えるため、分収林制度の活用による森林整備を推進することとする。

(3) その他必要な事項

協定の締結により継続的に体験活動ができる「遊々の森」等を活用して、豊かな自然環境を有する国有林野を多様な体験活動の場として積極的に提供し、森林環境教育の推進に努めることとする。

また、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育の

プログラムや教材の提供等を積極的に推進することとする。

さらに、森林管理署等は、国民参加による森林の整備・保全等に関する情報の提供、国民からの相談への対応、国民参加の支援を行う拠点としての機能を発揮するよう努めることとする。

## 7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

### (1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムの定着やコンテナ苗植栽の推進等による低コスト造林の導入・定着、普及を図ることとする。

国有林野事業において開発、改良された林業技術については、現地検討会の開催、モデル林、各種試験地等の設置等を通じて、地域林業関係者等への普及・定着を図ることとする。

また、研究機関等が行う林業技術の開発及び林業機械の導入試験等に対しては、フィールド提供を積極的に行うこととする。

### (2) 地域の振興に関する事項

機能類型に応じた適切な管理経営を行い、山地災害の防止、水源の涵養、自然環境の保全、保健・文化・教育的利用、木材の安定供給等を通じて地域振興に寄与するよう努めることとする。また、その際には次の点に留意することとする。

- ① 分収造林及び国有林野の利活用の要請に対しては積極的に対応する。
- ② 林道については、地域の実態を踏まえ、生活道路としての機能の発揮に十分留意する。
- ③ 蜂蜜の採取源となる樹種については、事業実行との調整を図りつつ、その保全に努める。

### (3) その他必要な事項

特になし。



# 第5次国有林野施業実施計画書

(始良森林計画区)

計画期間

自	平成28年4月	1日
至	平成33年3月	31日

九州森林管理局



## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	（1）伐採造林計画簿	1
	（2）水源涵養 <sup>かん</sup> タイプにおける施業群別面積等	1
	（3）水源涵養 <sup>かん</sup> タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	（4）伐採総量	3
	（5）更新総量	4
	（6）保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	7
	（1）保護林の名称及び区域	7
	（2）緑の回廊の名称及び区域	7
6	レクリエーションの森の名称及び区域	8
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	8
8	その他必要な事項	9
	（1）施業指標林、試験地等	9
	（2）フィールドの提供	9
	（3）その他	10
	（4）森林共同施業団地	10
（ 附 属 資 料 ）		
1	国有林野の現況	13
	（1）担当区別の区域及び面積	13
	（2）保安林、自然公園等の面積	14
	（3）林況（林種等別齢級別面積、蓄積及び成長量）	15
2	機能類型別の国有林野の現況	23
3	林道等の現況	24
4	収穫予想表	24
5	地元施設等の現況	24
別表1	収穫予想表	25



1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域の配置については、国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢等	
施業群	スギ・ヒノキ普通伐期	738.97	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	スギ 40～60 ヒノキ45～70
	スギ長伐期	1,750.72	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	70～100
	ヒノキ長伐期	2,948.23	同上	80～120
	アカマツ長伐期	225.19	同上	80
	ケヤキ長伐期	11.02	同上	150
	その他人工林	73.50	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	60上
	保護樹帯	700.58	被害木等について択伐を行う	60
	スギ・ヒノキ複層林	525.99	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	短期型 80 長期型 100
	その他複層林	57.86	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	特に定めない
	天然林長伐期	334.65	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	100
	天然林広葉樹	358.98	伐採箇所の縮小、分散化による択伐及び皆伐を行う	35上
	しいたけ原木	35.29	皆伐1回目以降は、ぼう芽更新を行う	15
施業群設定外	—			
合計	7,760.98			

注 スギ・ヒノキ普通伐期のスギ40～60年、ヒノキ45～70年及びスギ長伐期70～100年、ヒノキ長伐期80～120年は、地域管理経営計画の経常樹立年度において逐次、それぞれ60年、70年、100年、120年伐期に移行させることを含む。

(3) 水源涵養<sup>かん</sup>タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積
スギ・ヒノキ普通伐期	52
スギ長伐期	87
ヒノキ長伐期	122
アカマツ長伐期	14
ケヤキ長伐期	-
その他人工林	6
保護樹帯	58
スギ・ヒノキ複層林	52
その他複層林	5
天然林長伐期	16
天然林広葉樹	51
しいたけ原木	11

## (4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	林 地					林地 以外	合 計	
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計			
山地災害防止タイプ	—	16,077 (143)	16,077	/	/	/	/	
自然維持タイプ	—	—	—					
森林空間利用タイプ	—	345 (4)	345					
快適環境形成タイプ	—	—	—					
水 源 涵 養 タ イ プ	スギ・ヒノキ普通伐期	69,869	743					70,612
	スギ長伐期	15,708	60,921					76,629
	ヒノキ長伐期	977	88,284					89,261
	その他人工林	—	—					—
	スギ・ヒノキ複層林	54,931	—					54,931
	天然林長伐期	—	—					—
	天然林広葉樹	—	—	—				
	計	141,485	149,948 (1,465)	291,433				
合 計	141,485	166,370 (1,612)	307,855	22,145	330,000	—	330,000	
年 平 均	28,297	33,274 (322)	61,571	4,429	66,000	—	66,000	

注 ( ) は、間伐面積である。

## (再掲) 市町村別内訳

(単位：m<sup>3</sup>)

市 町 村 名	林 地					林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
霧 島 市	96,289	85,338	181,627	/	/	/	/
始 良 市	14,329	15,639	29,968				
湧 水 町	30,867	65,393	96,260				

注 臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

## (5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプ	合 計
人工 造林	単層林 造 成	—	—	—	—	182.27	182.27
	複層林 造 成	—	—	—	—	120.83	120.83
	計	—	—	—	—	303.10	303.10
天然 更新	天然下種 第 1 類	—	—	—	—	—	—
	天然下種 第 2 類	—	—	—	—	—	—
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—
合 計		—	—	—	—	303.10	303.10

## (6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプ	合 計
保 育	下刈	—	—	—	—	942.13	942.13
	つる切	—	—	—	—	150.22	150.22
	除伐	0.80	—	—	—	79.86	80.66
	枝打	—	—	—	—	—	—
	ぼう芽整理	—	—	—	—	—	—
	計	0.80	—	—	—	1,172.21	1,173.01



3 林道の整備に関する事項

基幹 ・ その他別	開設 ・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	黒仁田林道	1004	1,200	
その他	開設	金目ヶ塚1010林道	1009	700	
		川西3096林道	3095, 3096	2,500	
		日添1041林道	1040, 1041	1,200	
		黒岩1069林道	1067, 1068, 1069, 1070	2,700	
		荒磯138林道	137, 138	1,100	
基幹	改良	黒仁田林道	1005	2,500	舗装外
		白土林道	1007	20	橋梁外
		溝辺林道(前平側)	1014, 1015	1,200	舗装外
		溝辺林道	1016, 1017	2,500	舗装外
		菱刈林道	3086, 3087, 3088, 3092	3,500	舗装外
		日添林道(手洗側)	1042, 1046, 1050	700	舗装外
その他	改良	辺川林道	1011	30	併用擁壁工
		幸田頭林道29支線	1029	450	舗装外
		幸田頭林道	1028, 1029	2,500	舗装外
		国見林道	1030, 1031	1,900	舗装外
		山田林道	3095	1,000	舗装外
		菱刈林道86支線	3086	800	舗装外
		作鹿倉林道72支線	3072	1,200	舗装外
		作鹿倉林道68支線	3070, 3071	500	舗装外
		永池林道83支線	1083	900	舗装外
計	開設			9,400	6路線
	改良			19,700	25箇所

4 治山に関する事項

位 置 ( 林 班 )	区 分	工 種	計 画 量 ( 箇所数又は面積 )
126～128, 130, 131, 136～138, 1004～1011 1013, 1015～1037, 1039～1041, 1043, 1044, 1046～1051, 1053～1059, 1065～1070, 1072, 1074, 1080～1084, 1086～1090, 1114～1116, 3071～3073, 3086～3088, 3092, 3095, 3096, 3099,	保安林整備	本数調整伐	1,678ha
126, 1005, 1009, 1012, 1014, 1017～1019, 1021, 1023, 1026～1029, 1034, 1036, 1041, 1044, 1050, 1056, 1065～1067, 1071, 1072, 1078, 1080, 1081, 1083, 1087～1089,	保全施設	溪間工	35箇所
計	保安林整備		1,678ha
	保全施設		35箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種類	名称	既設 新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等
森林生物遺伝保存林	霧島山	既設	1,904.83	1042イ 1050れ～な 1052い～ち 1053へ～る 1055よ1～ね,ロ 1057り1,ぬ1,わ～よ 1058よ1～ね,イ,ロ 1059れ～む,イ 1060い～へ,イ～ハ 1061い～は,イ 1062い～よ,イ～ホ 1063い～か,イ～ソ 1064い～る 1065り～そ,ね,な, む～く 1066ね 1072た～そ1,け, ハ～ホ 1073に～う,イ,ロ 1074い～ん7,イ,ロ 1075い～り 1076い,ろ 1077い～か,イ 1078い1,に～へ,わ, イ,ロ 1079い～ろ1,へ,と1, り,わ 1085い～り1,イ～ホ 3055い～は,イ	霧島山は、生物相の多様性に富み、豊かな森林生物遺伝資源を有している。 標高500mから、標高1,100mの地域には、モミ、ツガ、アカマツ、カシ類、イスノキ群系(霧島山暖帯性上位植生)、標高1,100m以上の高地には、ハリモミ、アカマツ、ブナ、ミズナラ、スズタケ群系(霧島山温帯性植生)がみられ、アカガシ群落、ブナ、スズタケ群落など暖温帯から冷温帯までの垂直分布を有し、自然状態が良好に保たれ、南九州としては、霧島山固有種をはじめ貴重な種が保存されている。
林木遺伝資源保存林	川添	既設	79.26	3070い 3071い、ほ 3072る	タブノキ、イスノキ、シラカシ、アカガシ、スタジイ、ミズメ、クマシデなどの遺伝資源の保存

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名称	既設 新設	延長 (km)	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等
該当なし					

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業 方法	既存施設の 概要	施設 整備	備考
風景林	栗野岳	既設	98.52	1034ほ、ぬ～わよ	キリシマアカマツ、モミ、広葉樹を主体とする天然林と介在する人工林からなり、栗野岳温泉の湧出が自然の景観をより優れている。原生的な山間の気分が鑑賞できる等の温泉と天然林の景観が特色である。	育成単層林へ導くための施業 天然生林へ導くための施業 林地以外の土地	歩道一部丸太による階段歩道整備 鹿児島森林管理署		
				1034へ、ち、かた～ね					
				1035ね					
風景林	丸尾	既設	62.13	1060ろ、ろ1	キリシマアカマツを主としてモミ、ツガ、広葉樹を含んだ天然林と、これに介在するスギ、ヒノキの人工林からなり、林内各地に温泉湧出地や蒸気の噴出口等がある。	育成複層林へ導くための施業 天然生林へ導くための施業 林地以外の土地	歩道木橋(1橋)歩行面は石を敷き詰めてある 鹿児島県		
				1063ほ～ちぬ、る					
				1060い 1063い～にり、わ、か					
計			160.65	1060イ～ハ 1063イ～ソ					

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

名称	区域 (林小班)	面積 (ha)	森林施業 の種類	林道の 開設等	設定年及び 有効期限	備考
該当なし	民					
	国					

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種 類	名 称	設 定 年 度	面積 (ha)	位 置 (林小班)	備 考
次代検定林	九熊本第77号	S55	1.01	1032る	スギ
	九熊本第115号	H3	0.95	1090り2	スギ
施業指標林	天然林施業指標林	S61	1.42	3073ぬ	シデ
	択伐施業指標林	S63	5.21	1059れ	モミ、ツカ、アカツ
	天然林施業指標林	H1	4.12	1016や	広葉樹
遺伝子保存林	ヒノキ川平第1号	S44	0.95	1013わ1	ヒノキ
	ヒノキ段之頭第2号	S45	1.61	1024け1	ヒノキ
試 験 地	万善第一号収穫試験地	S27	1.01	1044け 1047ほ	ヒノキ
	川添収穫試験地	S38	0.82	1033た	スギ
	新燃岳噴火跡森林動態 観測試験地	H26	0.50	1080よ2 1085に2 1085り1	スギ アカツ

(2) フィールドの提供

対 象 地 ( 林 小 班 )	設 定 の 目 的	備 考
1032れ～ら	ふれあいの森	平成13年6月協定 吉松自然を考える会 「きりしまヤイロの森」

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置 ( 林 小 班 )	面積(ha)	施 業 方 法
1021か、た、れ 1032た～ね	24.32	育成単層林へ導くための施業
1080は、ほ～ち、よ1	17.26	育成複層林へ導くための施業
1032ち～ぬ、か、よ、な、ら、ら1、 1080た1	38.95	天然生林へ導くための施業
1032ハ	0.19	林地以外の土地

注 ふれあいの森その他森林空間利用タイプに設定している施業指標林、試験地等を除く。

(4) 森林共同施業団地

名 称	対象地 (林小班)		面積 (ha)	連携した施業の内容	備 考
始良西部地域森林 整備推進協定	民	始良西部地域森 林整備推進協定 書による。	3,247	路網の整備 間伐の方法 間伐材の販売等	
	国		2,094		

# 附 属 资 料





1 国有林野の現況

(1) 担当区別の区域及び面積

(単位：h a)

担当区	関係	要 存 置 林 野		不要存 置林野 面積	官 行 造林地 面積
	市町村	面積	関係林班		
溝 辺	霧 島 市	1,263.16	1011～1024	-	-
	始 良 市	788.53	1003～1010	0.06	42.09
	計	2,051.69		0.06	42.09
栗 野	霧 島 市	152.56	1025～1026	-	47.71
	湧 水 町	3,032.78	1027～1037、1039～1041、 1043、1113～1116、 3070～3073、3086～3088、 3092、3094～3096、3099	-	26.68
	計	3,185.34		-	74.39
牧 園	霧 島 市	2,264.72	1042、1044～1065、 1066い～ね、 1067い～お3、イ～ハ、 1068い～ね、ら、イ、1069、 1071そ、1072く～け、 1073に～う、イ、ロ、3055	16.67	181.18
	計	2,264.72		16.67	181.18
霧 島	霧 島 市	3,450.25	126～131、136～138、1066な、 1067く、1068な、1070、 1071い～れ、つ、ね、イ～ハ、 1072い～お、イ～へ、 1073い～は1、1074～1091	12.30	10.79
	計	3,450.25		12.30	10.79
合 計		10,952.00		29.03	308.45

(2) 保安林、自然公園等の面積

(単位 : ha)

区分		森林管理署別			
		鹿児島		合計	
保安林	水源かん養保安林		9,728.26		9,728.26
	土砂流出防備保安林	(4.25)	468.17	(4.25)	468.17
	土砂崩壊防備保安林	(50.54)	19.08	(50.54)	19.08
	飛砂防備保安林				
	防風保安林				
	水害防備保安林				
	潮害防備保安林				
	干害防備保安林				
	防雪保安林				
	防霧保安林				
	なだれ防止保安林				
	落石防止保安林				
	防火保安林				
	魚つき保安林				
	航行目標保安林				
	保健保安林	(1,289.62)	205.73	(1,289.62)	205.73
	風致保安林				
	計	(1,344.41)	10,421.24	(1,344.41)	10,421.24
保安施設地区					
砂防指定地		(21.40)	2.04	(21.40)	2.04
国立公園	特別保護地区	(715.43)	49.40	(715.43)	49.40
	第一種特別地域	(617.42)	3.53	(617.42)	3.53
	第二種特別地域	(413.55)	11.38	(413.55)	11.38
	第三種特別地域	(984.26)	17.14	(984.26)	17.14
	地種区分未定特別地域				
	計	(2,730.66)	81.45	(2,730.66)	81.45
国定公園	特別保護地区				
	第一種特別地域				
	第二種特別地域				
	第三種特別地域				
	地種区分未定特別地域				
計					
都道府県立自然公園	第一種特別地域				
	第二種特別地域				
	第三種特別地域				
	地種区分未定特別地域				
	計				
原生自然環境保全地域					
自然環境保全地域特別地区					
都道府県自然環境保全地域特別地区					
鳥獣保護区特別保護地区		(1,274.44)		(1,274.44)	
都市緑地保全法による緑地保全地区					
都市計画法による風致地区					
林業種苗法による特別母樹林					
史跡名勝天然記念物		(61.63)	0.19	(61.63)	0.19
種の保存法による管理地区					
その他の制限林					
制限林計		(5,432.54)	10,504.92	(5,432.54)	10,504.92
普通林	国立公園普通地区	(1,828.83)	127.27	(1,828.83)	127.27
	国定公園普通地区				
	都道府県立自然公園普通地区				
	自然環境保全地域普通地区				
	都道府県自然環境保全地域普通地区				
	鳥獣保護区普通地区	(2,610.26)	21.80	(2,610.26)	21.80
	種の保存法による監視地区				
	その他の法指定地域(普通林)				
普通林計		(4,439.09)	149.07	(4,439.09)	149.07
法指定地域合計		(9,871.63)	10,653.99	(9,871.63)	10,653.99

注 ( ) 書きは、重複分。

(3) 林況(林種等別齡級別面積、蓄積及び成長量)

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	総数			1 級			2 級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
人工林	N	1,936,284	66,468.7						
	L	123,710	1,565.2						
	計	2,059,994	68,033.9	62.31			30.85		
育成複層林	N	50,259	1,007.8						
	L	5,276	64.0						
	計	( 172.93) 172.93	1,071.8	123.77					
計	N	1,986,543	67,476.5						
	L	128,986	1,629.2						
	計	2,115,529	69,105.7	186.08			30.85		
天然林	N								
	L			7.2					
	計	11.05		7.2	3.59			5.69	
育成複層林	N			1.3					
	L			1.4					
	計	1.68		2.7					
天然林	N	314,799	402.1						
	L	480,574	3,244.4						
	計	795,373	3,646.5					2.34	
計	N	314,885	403.4						
	L	480,828	3,253.0						
	計	795,713	3,656.4	3.59				8.03	
竹	N								
	L								
	計	42.18							
無立木地	N								
	L								
	計	2,301,428	67,879.9						
計	N	609,814	4,882.2						
	L	2,911,242	72,762.1	189.67					
	計	10,540.86							
附帯地	N	147.61							
	L	78.95							
	計	184.58							
貸地	N								
	L								
	計	411.14							
雑地	N								
	L								
	計	2,301,428	67,879.9						
計	N	609,814	4,882.2						
	L	2,911,242	72,762.1	189.67					
	計	10,952.00							
林地以外 の 土地	N								
	L								
	計	38.88							
合計	N	2,301,428	67,879.9						
	L	609,814	4,882.2						
	計	2,911,242	72,762.1	189.67					
合計	N	10,952.00							
	L								
	計	38.88							

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	3 級			4 級			5 級			成長量		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
人工林	N	702	125.6			8,631			1,282.1			17,119
	L	1,129	109.0			959			76.6			2,721
	計	50.16	1,831	234.6	115.11	9,590	144.10	19,840	1,358.7	107	20,283	2,161.5
複層林	N			7.2		110			95.8			12.3
	L								7.8			18.5
	計	2.23	78	7.2	( 2.33)	806	4.32	443	103.6			30.8
天然林	N			7.2		9,327			1,377.9			2,026.3
	L			116.2		1,069			84.4			166.0
	計	52.39	1,909	241.8	124.00	10,396	148.42	20,283	1,462.3			2,192.3
天然林	N											
	L			7.2								
	計	1.77	73	7.2								
天然林	N											
	L											
	計											
天然林	N											
	L			31.9		64			9.7			2.1
	計	8.01	316	31.9	71.45	4,974	158.39	13,528	392.0	20	797.0	799.1
天然林	N											
	L			39.1		64			9.7			2.1
	計	9.78	389	39.1	71.45	4,974	158.39	13,528	392.0	20	797.0	799.1
竹林	N											
	L											
	計											
無立木地	N											
	L											
	計											
計	N			125.6		9,391			1,387.6			2,028.4
	L			155.3		6,043			476.4			963.0
	計	62.17	2,298	280.9	195.45	15,434	306.81	33,831	1,864.0			2,991.4
附帯地 貸地 雑地	N											
	L											
	計											
合計	N			125.6		9,391			1,387.6			2,028.4
	L			155.3		6,043			476.4			963.0
	計	62.17	2,298	280.9	195.45	15,434	306.81	33,831	1,864.0			2,991.4

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	6			7			8		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
人工林	N	48,639	4,491.4		193,022	13,051.9		238,805	11,774.3
	L	2,714	113.9		4,007	126.9		4,559	111.4
	計	250.98	4,605.3	696.52	197,029	13,178.8	734.72	243,364	11,885.7
天然林	N		18.7						
	L								
	計	1.16	18.7						
天然林	N		4,510.1		193,022	13,051.9		238,805	11,774.3
	L		113.9		4,007	126.9		4,559	111.4
	計	252.14	4,624.0	696.52	197,029	13,178.8	734.72	243,364	11,885.7
竹	N								
	L								
	計								
無立木地	N								
	L								
	計								
計	N	48,818	4,510.1		193,099	13,057.9		239,098	11,785.2
	L	23,914	1,027.7		10,822	354.1		7,365	176.8
	計	453.99	5,537.8	750.72	203,921	13,412.0	759.86	246,463	11,962.0
附帯地 貸地 雑地	N								
	L								
	計								
合計	N	48,818	4,510.1		193,099	13,057.9		239,098	11,785.2
	L	23,914	1,027.7		10,822	354.1		7,365	176.8
	計	453.99	5,537.8	750.72	203,921	13,412.0	759.86	246,463	11,962.0

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	9			級成長量			10			級成長量			11			級成長量				
	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	材積 m <sup>3</sup>		
																			面積 ha	材積 m <sup>3</sup>
林地	人工林	育成	N		312,650	11,153.7					349,122	9,401.2			333,827	7,049.3				
		単層林	L		6,183	110.9					9,907	138.0			16,288	187.1				
		計		942.95	318,833	11,264.6		1,083.98			359,029	9,539.2		1,095.86	350,115	7,236.4				
	天然林	育成	N																	
		単層林	L																	
		計		942.95	318,833	11,264.6		1,094.11			369,233	9,778.3		1,106.64	366,433	7,566.5				
	林地以外の土地	竹	育成	N																
			単層林	L																
			計																	
		無立木地	育成	N																
			単層林	L																
			計																	
附帯地		育成	N		312,650	11,153.7					359,525	9,646.0			351,626	7,409.8				
		単層林	L		11,498	205.0					12,752	176.3			32,273	369.6				
		計		975.24	324,148	11,358.7		1,108.92			372,277	9,822.3		1,192.77	383,899	7,779.4				
合計		育成	N		312,650	11,153.7					359,525	9,646.0			351,626	7,409.8				
		単層林	L		11,498	205.0					12,752	176.3			32,273	369.6				
		計		975.24	324,148	11,358.7		1,108.92			372,277	9,822.3		1,192.77	383,899	7,779.4				

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	1 2			1 3			1 4		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
人工林	N	221,810	3,936.9		120,917	1,690.6		27,467	304.1
	L	25,750	245.6		15,140	111.4		7,712	46.3
	計	762.73	4,182.5	444.80	136,057	1,802.0	117.55	35,179	350.4
複層林	N		271.8					779	9.8
	L		13.7						
	計	(39.02) 11.65	285.5				(3.51)	779	9.8
計	N		4,208.7		120,917	1,690.6		28,246	313.9
	L		259.3		15,140	111.4		7,712	46.3
	計	774.38	4,468.0	444.80	136,057	1,802.0	117.55	35,958	360.2
天然林	N								
	L								
	計								
育成複層林	N		27	0.5	59	0.8			
	L		43	0.4	138	1.0			
	計	0.20	70	0.9	197	1.8			
天然林	N		56.0		8,530	106.6		6,626	60.7
	L		115.6		19,300	143.0		12,801	76.7
	計	81.81	167.6	116.11	27,830	249.6	90.30	19,427	137.4
計	N		3,977	56.5	8,589	107.4		6,626	60.7
	L		12,860	116.0	19,438	144.0		12,801	76.7
	計	82.01	16,837	172.5	28,027	251.4	90.30	19,427	137.4
竹	N								
	L								
	計								
無立木地	N								
	L								
	計								
計	N		4,265.2		129,506	1,798.0		34,872	374.6
	L		375.3		34,578	255.4		20,513	123.0
	計	856.39	4,640.5	562.39	164,084	2,053.4	207.85	55,385	497.6
附帯地 貸地 雑地	N								
	L								
	計								
計	N		4,265.2		129,506	1,798.0		34,872	374.6
	L		375.3		34,578	255.4		20,513	123.0
	計	856.39	4,640.5	562.39	164,084	2,053.4	207.85	55,385	497.6
合計	N		4,265.2		129,506	1,798.0		34,872	374.6
	L		375.3		34,578	255.4		20,513	123.0
	計	856.39	4,640.5	562.39	164,084	2,053.4	207.85	55,385	497.6

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	1 5			1 6			1 7		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
人工林	N	9,259	84.1		4,583	29.0		1,781	10.3
	L	2,897	14.4		1,606	6.5		942	2.8
	計	47.07	98.5	28.01	6,189	35.5	9.92	2,723	13.1
複層林	N				4,653	35.9			
	L				1,994	8.0			
	計			( 18.62)	6,647	43.9			
天然林	N		84.1		9,236	64.9		1,781	10.3
	L		14.4		3,600	14.5		942	2.8
	計	47.07	98.5	28.01	12,836	79.4	9.92	2,723	13.1
竹	N								
	L								
	計								
無立木地	N								
	L								
	計								
計	N	11,924	105.5		9,752	68.4		5,303	29.2
	L	16,834	83.9		7,918	31.6		14,946	44.7
	計	121.87	189.4	52.93	17,670	100.0	80.81	20,249	73.9
附帯地 貸地 雑地	N								
	L								
	計								
合計	N	11,924	105.5		9,752	68.4		5,303	29.2
	L	16,834	83.9		7,918	31.6		14,946	44.7
	計	121.87	189.4	52.93	17,670	100.0	80.81	20,249	73.9

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む



(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	18			19			20			級			
	面積		材積	成長量		面積	材積		面積	成長量		材積	成長量
	ha	m <sup>3</sup>		m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>		ha	m <sup>3</sup>		m <sup>3</sup>	ha		
人工林	N	12,364	48.4				5,222	13.7			12,586	8.1	
	L	7,593	15.1				2,399	1.8			1,734		
	計	67.79	19,957	63.5		31.35	7,621	15.5	81.95		14,320	8.1	
複層林	N		1.6								1,225	0.7	
	L		0.8								95		
	計	( 2.23)	803	2.4					( 7.55)				
天然林	N			2.4							1,320	0.7	
	L		12,760	50.0			5,222	13.7			13,811	8.8	
	計		8,000	15.9			2,399	1.8			1,829		
天然林	N	67.79	20,760	65.9		31.35	7,621	15.5	81.95		15,640	8.8	
	L												
	計												
竹	N												
	L												
	計												
無立木地	N												
	L												
	計												
計	N		106.3				10,180	18.9			22,624	9.5	
	L		43.2				24,981	20.9			23,578		
	計	208.06	56,759	149.5		335.65	35,161	39.8	217.26		46,202	9.5	
附帯地 貸地 雑地	N												
	L												
	計												
合計	N		106.3				10,180	18.9			22,624	9.5	
	L		43.2				24,981	20.9			23,578		
	計	208.06	56,759	149.5		335.65	35,161	39.8	217.26		46,202	9.5	

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

(面積：ha, 材積：m<sup>3</sup>, 成長量：m<sup>3</sup>/年)

区分	2.1 齢級以上		成長量 m <sup>3</sup>
	面積 ha	材積 m <sup>3</sup>	
人工林	N	17,778	
	L	9,470	
	計	106.82	
林	N		
	L		
	計	( 45.86)	
天然林	N		2,060
	L		19,838
	計	106.82	29,308
天然林	N		
	L		
	計		
天然林	N		
	L		
	計		
天然林	N		251,636
	L	1,714.17	270,732
	計		522,368
天然林	N		251,636
	L		270,732
	計	1,714.17	522,368
竹林			
無立木地	N		
	L		
	計		
計	N		271,474
	L		280,202
	計	1,820.99	551,676
附帯地 貸地 雑地	N		
	L		
	計		
林地以外 の 土地	N		
	L		
	計		
合計	N		271,474
	L	1,820.99	280,202
	計	1,820.99	551,676

(注) 1 ( ) は、複層林の上木面積 2 材積には、点生木及び被害木を含む

2 機能類型別の国有林野の現況

(単位：面積 ha, 材積 m<sup>3</sup>)

機能類型 林種	山地災害防止タイプ						快速環境形成タイプ		水源かん養タイプ		自然維持タイプ		森林空間利用タイプ		合計	
	土砂流出崩壊防備			気象害防備			面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積
	面積	材積	面積	材積	面積	材積										
人工林	368.03	110,209			368.03	110,209			6,178.56	1,851,414	315.58	88,021	43.36	10,350	6,905.53	2,059,994
天然林	2.23	881			2.23	881			162.27	52,419	8.43	2,235			172.93	55,535
小計	370.26	111,090			370.26	111,090			6,340.83	1,903,833	324.01	90,256	43.36	10,350	7,078.46	2,115,529
無立木地									11.05	73					11.05	73
竹林									1.68	267					1.68	267
林地計	701.28	175,676			701.28	175,676			1,365.24	244,166	1,578.35	439,407	132.88	47,214	3,407.49	795,373
林地以外	38.67				38.67				1,377.97	244,506	1,578.35	439,407	132.88	47,214	3,420.22	795,713
合計	739.95	175,676			739.95	175,676			8,006.67	2,148,339	2,026.14	529,663	179.24	57,564	10,952.00	2,911,242

注1 < >は機能類型区分外で内書。 2 ( )は竹林の面積及び材積で外書。

### 3 林道等の現況

(単位：k m)

区 分	林 道			作 業 道
	自動車道	軽 車 道	合 計	
延 長	1,600	-	1,600	481

資料 鹿児島森林管理署（平成27年3月末現在）

### 4 収穫予想表

「別表1」のとおり

### 5 地元施設等の現況

(単位：h a)

区 分		面 積
分収造林契約に基づく分収林		525.94
分収育林契約に基づく分収林		33.71
共 用 林 野	普 通	-
	薪 炭	-
	放 牧	-
	合 計	-
貸 地	植 樹 用 地	-
	農 耕 用 地	1.10
	鉱 業 用 地	-
	道 路 用 地	39.19
	水 路 用 地	1.85
	電 気 事 業 用 地	13.37
	温 鉱 泉 用 地	1.05
	採 草 放 牧 地	6.08
	建 物 用 地	0.80
	そ の 他 貸 地	15.51
合 計		78.95

平成27年3月31日現在

別表1 収穫予想表

始良森林計画区

林 齢	樹種		スギ				地位			2					成長率 %
	主林木						副林木			主副林木合計					
	平均胸高直径 cm	平均樹高 m	h a 当たり				h a 当たり			h a 当たり					
			本数	幹材積 m <sup>3</sup>	連年成長量 m <sup>3</sup>	平均成長量 m <sup>3</sup>	本数	幹材積 m <sup>3</sup>	幹材積累計 m <sup>3</sup>	本数	幹材積 m <sup>3</sup>	連年成長量 m <sup>3</sup>	総収穫量 m <sup>3</sup>	平均成長量 m <sup>3</sup>	
10	5.7	3.2		16		1.6					16		16	1.6	
					3.2						5.8				19.0
15	8.7	5.4	2,150	32		2.1	1,000	13	13	3,150	45		45	3.0	
					6.6						9.6				17.0
20	11.7	7.5	1,680	65		3.3	470	15	28	2,150	80		93	4.7	
					8.8						12.0				12.6
25	14.4	9.5	1,420	109		4.4	260	16	44	1,680	125		153	6.1	
					10.6						14.4				9.9
30	16.8	11.3	1,235	162		5.4	185	19	63	1,420	181		225	7.5	
					10.0						14.2				7.2
35	18.9	12.9	1,100	212		6.1	135	21	84	1,235	233		296	8.5	
					8.0						12.0				5.0
40	20.8	14.3	1,000	252		6.3	100	20	104	1,100	272		356	8.9	
					6.0						9.6				3.5
45	22.5	15.5	925	282		6.3	75	18	122	1,000	300		404	9.0	
					5.0						8.2				2.7
50	24.0	16.5	865	307		6.1	60	16	138	925	323		445	8.9	
					4.4						7.4				2.3
55	25.3	17.3	815	329		6.0	50	15	153	865	344		482	8.8	
					3.8						6.4				1.9
60	26.4	17.9	775	348		5.8	40	13	166	815	361		514	8.6	
					3.4						5.6				1.5
65	27.3	18.4	745	365		5.6	30	11	177	775	376		542	8.3	
					3.0						4.6				1.2
70	28.0	18.8	725	380		5.4	20	8	185	745	388		565	8.1	
					2.8						4.0				1.0
75	28.5	19.2	710	394		5.3	15	6	191	725	400		585	7.8	
					2.6						3.4				0.8
80	28.8	19.6	700	407		5.1	10	4	195	710	411		602	7.5	

林 齡	樹 種		ヒノキ				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径	平均 樹高	h a 当 た り				h a 当 た り			h a 当 た り					成 長 率
			本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	平 均 成 長 量	本 数	幹 材 積	幹 材 積 累 計	本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	総 収 穫 量	平 均 成 長 量	
cm	m	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	%	
10	4.8	3.4		16		1.6					16		16	1.6	
					3.6						5.6				18.7
15	7.3	5.4	2,450	34		2.3	1,150	10	10	3,600	44		44	2.9	
					5.4						7.6				14.3
20	9.9	7.5	1,890	61		3.1	560	11	21	2,450	72		82	4.1	
					7.8						10.0				11.6
25	12.5	9.5	1,610	100		4.0	280	11	32	1,890	111		132	5.3	
					10.4						12.8				9.6
30	15.0	11.2	1,420	152		5.1	190	12	44	1,610	164		196	6.5	
					9.2						12.0				6.6
35	17.2	12.6	1,275	198		5.7	145	14	58	1,420	212		256	7.3	
					8.0						10.8				4.8
40	19.1	13.8	1,165	238		6.0	110	14	72	1,275	252		310	7.8	
					6.8						9.4				3.6
45	20.7	14.8	1,080	272		6.0	85	13	85	1,165	285		357	7.9	
					5.6						8.0				2.7
50	22.0	15.6	1,015	300		6.0	65	12	97	1,080	312		397	7.9	
					4.4						6.4				2.0
55	23.0	16.3	965	322		5.9	50	10	107	1,015	332		429	7.8	
					3.6						5.4				1.6
60	23.7	16.9	925	340		5.7	40	9	116	965	349		456	7.6	
					2.8						4.2				1.2
65	24.2	17.4	895	354		5.4	30	7	123	925	361		477	7.3	
					2.4						3.4				0.9
70	24.6	17.8	875	366		5.2	20	5	128	895	371		494	7.1	
					2.2						3.0				0.8
75	25.0	18.1	860	377		5.0	15	4	132	875	381		509	6.8	
					2.0						2.6				0.7
80	25.4	18.3	850	387		4.8	10	3	135	860	390		522	6.5	

林 齡	樹 種		マ ツ				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径	平均 樹高	h a 当 た り				h a 当 た り			h a 当 た り					成 長 率
			本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	平 均 成 長 量	本 数	幹 材 積	幹 材 積 累 計	本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	総 収 穫 量	平 均 成 長 量	
cm	m	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	%	
10	5.3	3.6		18		1.8					18		18	1.8	
					4.4						5.6				17.5
15	7.8	5.7	2,855	40		2.7	1,290	6	6	4,145	46		46	3.1	
					6.4						8.2				13.6
20	10.8	7.6	2,148	72		3.6	707	9	15	2,855	81		87	4.4	
					7.0						9.2				10.1
25	13.3	9.3	1,728	107		4.3	420	11	26	2,148	118		133	5.3	
					6.6						9.0				6.9
30	15.5	10.6	1,433	140		4.7	295	12	38	1,728	152		178	5.9	
					5.0						7.6				4.8
35	17.7	11.8	1,210	165		4.7	223	13	51	1,433	178		216	6.2	
					4.0						6.6				3.6
40	19.5	12.7	1,038	185		4.6	172	13	64	1,210	198		249	6.2	
					3.0						5.4				2.7
45	21.1	13.5	908	200		4.4	130	12	76	1,038	212		276	6.1	
					2.2						4.4				2.1
50	22.7	14.2	805	211		4.2	103	11	87	908	222		298	6.0	
					1.8						3.8				1.7
55	23.9	14.8	728	220		4.0	77	10	97	805	230		317	5.8	
					1.4						3.2				1.4
60	25.2	15.3	665	227		3.8	63	9	106	728	236		333	5.6	
					0.8						2.6				1.1
65	26.3	15.9	613	231		3.6	52	9	115	665	240		346	5.3	
					0.6						2.2				0.9
70	27.1	16.3	573	234		3.3	40	8	123	613	242		357	5.1	
					0.6										0.8
75	27.8	16.6	543	237		3.2	30	6	129	573	243		366	4.9	
					0.2						1.4				0.6
80	28.0	16.8	513	238		3.0	30	6	135	543	244		373	4.7	

林 齡	樹 種		広葉樹				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径	平均 樹高	h a 当 たり				h a 当 たり			h a 当 たり					成 長 率
			本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	平 均 成 長 量	本 数	幹 材 積	幹 材 積 累 計	本 数	幹 材 積	連 年 成 長 量	総 収 穫 量	平 均 成 長 量	
cm	m	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	%	
10	4.7	4.2		30		3.0					30		30	3.0	
						4.0							4.0		10.0
15	5.6	4.8		50		3.3					50		50	3.3	
						4.8							4.8		7.7
20	6.5	5.4		74		3.7					74		74	3.7	
						5.0							5.0		5.8
25	7.3	6.0		99		4.0					99		99	4.0	
						4.6							4.6		4.2
30	8.1	6.5		122		4.1					122		122	4.1	
						4.2							4.2		3.2
35	8.8	7.0		143		4.1					143		143	4.1	
						3.6							3.6		2.4
40	9.5	7.5		161		4.0					161		161	4.0	
						3.0							3.0		1.8
45	10.1	7.8		176		3.9					176		176	3.9	
						2.6							2.6		1.4
50	10.7	8.3		189		3.8					189		189	3.8	
						2.2							2.2		1.1
55	11.3	8.7		200		3.6					200		200	3.6	
						1.8							1.8		0.9
60	11.8	9.1		209		3.5					209		209	3.5	
						1.4							1.4		0.7
65	12.3	9.4		216		3.3					216		216	3.3	
						1.2							1.2		0.6
70	12.8	9.7		222		3.2					222		222	3.2	
						1.0							1.0		0.5
75	13.2	10.0		227		3.0					227		227	3.0	
						0.8							0.8		0.4
80	13.6	10.3		231		2.9					231		231	2.9	





